

平成30年度の新入社員

●今年度の新入社員が育った時代

今年も初々しい新入社員が入社し、新たな風を感じる季節となりました。この春、社会人1年生となった彼らは、どのような時代に生まれ、育ったのでしょうか。

今回は、新入社員との会話のきっかけや接し方のヒントとして、彼らの育った時代や世代の特徴などについてみていきます。

●景気が伸び悩み、大きな出来事が連続

高校卒業後、すぐに大学へ進学した場合、平成30年度の新卒者は平成7(1995)年4月2日～平成8(1996)年4月1日の間に生まれた人で、いわゆる「ゆとり」と呼ばれる世代です。また、歴史的に例を見ない災害や事件を子ども時代に数多く経験しました。

彼らが生まれた平成7年の主な出来事を振り返ってみると、1月に阪神淡路大震災、3月に地下鉄サリン事件が発生し、社会不安が広がりました。また、7月に九州自動車道が全線開通し、青森～鹿児島～宮崎間が高速道路で結ばれ、11月に東京臨海副都心にゆりかもめの一部が開業するなど交通の整備が進みました。

経済状況については、4月に昭和22(1947)年以来の1ドル＝79.75円という高値を記録(平成23年3月16日に更新)。景気はバブル崩壊からの回復基調にあったものの、設備投資や個人消費の回復力の弱さ、急速な円高、米国景気の一時的な減速などを背景に、年の前半で足踏み状態に。

幼少期を過ごした平成10(1998)年は、2月に長野オリンピックが開催された年で、6月にはサッカーW杯に日本が初出場。暗い話題としては、7月に和歌山県で毒物入りカレー事件が発生し、景気の陰りも前年から引き続き、大手企業がいくつも倒産しました。

平成12(2000)年には、低脂肪乳に食中毒菌が混入していた雪印乳業食中毒、三宅島の噴火などがありました。幼稚園を卒業する平成13(2001)年には、9.11米国同時多発テロや狂牛病が発生。政界では第一次小泉内閣が発足しました。

●不況や震災に見舞われた中学・高校時代

小学校を卒業し、中学校に入学した平成20(2008)年には、米国のサブプライム住宅ローン危機が発生。リーマン・ショックを代表例とする経済問題に発展。食品偽装や異物混入事件も問題となりました。また、米国ではバラク・オバマが米大統領選に勝利し、初の黒人大統領となりました。

中学を卒業する平成23(2011)年には、東日本大震災が起り、深刻な原発事故も発生。防災やエネルギー対策を見直すきっかけとなりました。

平成26(2014)年に高校を卒業すると同時に、ゆとり教育が終了し、1995年生まれは小・中・高の12年間、ゆとり教育を受けた世代となります。そして、大学へ入学した4月1日から消費税8%への増税が施行されました。

●新卒は「SNSを駆使するチームパシュートタイプ」

人事労務分野の情報機関である産労総合研究所が発表した「2018年度(平成30年度)新入社員のタイプ」によると、この春の新入社員は「SNSを駆使するチームパシュートタイプ」とのこと。平昌オリンピックにて、見事なチームワークで金メダルを獲得した女子チームパシュートのように、就職活動にあたっては、仲間同士で協力関係を築き、SNSでこまめな情報交換を行い、内定というゴールを目指したということです。

また、(公財)日本生産性本部の新入社員意識調査では、「買い手市場」の不況期には新入社員の本音が見えにくくなりますが、今年度のような「売り手市場」になると、顕在化する傾向にあるそうです。入社後は、定着へ向け一人ひとりの資質を見極めた丁寧な育成が必要となるようです。

なお、「2018年度(平成30年度)新入社員のタイプ」については、産労総合研究所のHP(https://www.e-sanro.net/freshers/?page_id=576)より全文がご覧いただけます。

COFFEE BREAK

なぜあえて?! “暗闇” フィットネスが人気

老若男女がジムへ通う昨今。ここ数年は、海外発の“暗闇”フィットネスが密かにヒットしているのをご存知ですか。日本での先駆けは、薄暗い室内でカラフルな照明や軽快な音楽とともにエアロバイクを漕ぐスタイルでしたが、今やトランポリン、ボクシング、ヨガなど多彩なフィットネスが行われています。で



は、なぜ暗闇なのでしょう? 大手ジムの利用者インタビューによると、「没入感がある」「人目が気にならない」「非日常空間が体験できる」「楽しみながらできる」といった声。薄暗い環境ならば視線も気にならず、シャイな日本人も運動に集中できる点がヒットの要因であろうとされています。